令和２年度

事業報告書

令和２年４月１日～令和３年３月 31 日

特定非営利活動法人　　FORYOU　にこにこの家

令和２年度事業報告書

特定非営利活動法人　ＦＯＲＹＯＵ　にこにこの家

期間　自　令和２年４月１日

至　令和３年３月 31 日

Ⅰ　事業の総括（成果及び課題）

「シニアがシニアを支えるまちに」「子ども・子育て応援社会」「誰にも優しいまちづくり」を目指すＮＰＯ法人として、「伝え合う・認め合う・支え合う」を念頭に「社会教育」、「学校教育」、「家庭教育」が重なり合った地域社会における「共生」「協働」「連携」を踏まえた地域福祉に取り組んできた。

事業では、「シニア応援事業」「地域交流事業」「児童館事業」「防災･減災事業」「心の輪事業」「子ども食堂事業」に取り組んだが、新型コロナウィルス感染の拡大防止に伴う活動自粛を踏まえながら、新たな事業展開を図った１年となった。

介護予防の一環として 1995 年から実施してきた高齢者サロン「ミニディサービス」を 3 月から休むことを決断した。新型コロナウィルス感染予防のためには、フラダンスや民謡、カラオケなどが今後も困難と考え、7 月に事務所を移転し、9 月から東四郎丸コミュニティセンターで、麻雀や手芸、フラワーアレンジメントなどの新たなサロン活動を開始した。その間　法人として利用者の皆さんにはお手紙を添えて食料などを 3 回送って安否確認を行った。同時に児童館でも学校休業に伴い、朝から子どもたちを受け入れることとなり、学校と連携して子どもたちの安全に取り組んだ。また　法人として家庭支援が必要と考え、東四郎丸児童館で児童クラブ児童を対象に月 1 回ほどお昼の提供を行った。更に　事業の変更を決断しなければならない事業もあった。【子ども・子育て応援社会】を目指し、子ども食堂の助成金を活用し「子どもの貧困対策」として行ってきた子どものサロン「にこ　寺子屋」の取り組みはできない状況となり、「にこ　寺子屋」から「ハリーレストラン」に変更し、月 1 回イベントや行事に合わせて、子どもや地域に向けてお弁当などの提供を行った。また　「地域交流事業」や「防災・減災事業」「心の輪事業」は停止するのではなく、縮小しながらも継続して行った。

活動自粛の一方で、新型コロナウィルス禍の状況においても、「住民主体による訪問型地域支え合い活動促進事業」生活サポート事業は多くの高齢者からの要求に応える事業展開となった。【シニアがシニアを支える社会】を目指して、新たな視点から行った訪問型生活サポート事業は「日常生活」を支える意義ある事業と考える。

９月から“にこにこの家は、「Action　with　corona」を掲げ、コロナに対応しながら、日常生活を、いつもの生活をすることを提唱して、事業を実践しています。”と提言し、地域福祉に取り組むＮＰＯ法人として　経理面及び情報開示面での透明性を意識した運営を行いながら、「誰にも優しいまちづくり」に取り組んだ。

Ⅱ　活動に関する事項

【シニア応援事業】

１．～ふれあいデイホーム事業～ミニディサービス：高齢者のサロン活動１９９５年～

年齢を重ねても自分らしく生きるために、興味のあるレクリエーションに参加し、利用者さん同士交流を図り、つながりあえるサロンとなっている。

毎年行ってきた月曜日講師を迎えてのフラダンスや民謡教室、火曜日カラオケ、おでかけ、野外活動など「元気な高齢者」を目指す活動を制限する必要があり、9 月から麻雀やフラワーアレンジメント、手芸に変えてサロン活動を行い、レクリエーションでの達成感や仲間づくり、健康管理としてスローフードなヘルシーランチを提供して介護予防に努めた。

個人を尊重した対応を心がけ、利用者さんの存在を活かせる活動になるようスタッフ全員で共有し、活動を行った。

年間利用者延べ人数　41 人	年間事業従事者延べ人数 36 人	年間 6 回

麻雀サロン
利用者さんの声「認知症防止になるね！」

ちりめんカードケース作り
利用者の声:「かわいくできた！！」

２．～住民主体よる訪問型地域支え合い活動促進事業～　2018 年～

今後迎える超高齢社会の中で　シニアがシニアを支える生活サポート事業

地域の方のサポートを受けながら、サポートしながら、地域で暮らしているという小さなつながりを大切に、この活動継続に取り組んできて、当法人が目指す「シニアがシニアを支えるまちづくり」が歩み出したように思える。

少子高齢社会が進む中で、自分のできることは自分でする、でも　できないところは応援をしてもらうという地域の中の助け合いが本当に必要になっていると実感する 1 年でした。一人暮らしの方も多く、また　子どもたちに仕事を休んでもらってまで迷惑をかけないようにと考えている高齢者の方たちも多く、この事業の利用が増えてきたと感じる。さらに　生活サポーターの皆さんが利用者の方々の気持ちに添って対応してくだ

さっていることが大きい成果を上げていると思う。課題があれば利用者さんからも生活サポーターさんからも事務所に連絡いただき、相談して進めている。随時　生活サポーターみんなで事務所に集まって話し合いをし、高齢者の皆さんの生活を尊重するようなサポートのあり方を検討している。しっかり生きている方、柔軟な対応のできる方が生活サポーターにふさわしい方だと思いますので、生活サポーターさんを増やすのは難しいのですが、連合町内会の協力で毎月回していただく町内回覧を見て、問い合わせも多くなっているので、今後は生活サポーターさんを増やし、研修などを行いながら、心のあるサポートをしていきたいと思う。

利用者数	38 名
食事作り	141 回
草取り	12 回
清掃	45 回
通院付添い	6 回
回数	204 回

【地域交流事業】

地域の様々な団体や学校、地域の人たちと連携し、子どもも高齢者も、病気や障がいを持っていても、すべての人が安心して生活できる、地域で地域の応援ができる東中田地区を目指し，いろいろな活動を継続して実施した。

１．「ほっとネット in　東中田」【代表･事務局】2003 年～

～東中田地区 19 団体と地域福祉ネットワーク活動～

社会福祉法人、民生委員・児童委員、地域包括支援センター、ＮＰＯ法人、生活支援事業所、児童館、連合町内会、社会福祉協議会、市民センターなど 19 団体

年 10 回の会議開催、年間カレンダー3 回発行 毎年行っていた講演会・講習会・交流会・東中田けんこうひろばなどは中止

昨年度　東中田町内会連合会、東中田地区社会福祉協議会と「いっとき避難場所」や「がんばる避難施設」の看板制作を行ったが、コロナウィルス感染の影響で 3 月の看板設置を急遽取りやめたため、今年度は「看板設置」と「助っ人マップ作成」を行った。「指定避難所」「いっとき避難場所」「がんばる避難施設」、「AED 設置箇所」などを「助っ人マップ」に入れ込み、地震・水害などの災害時に役に立つマップを作り上げた。さらに地域住民と共有するために、東中田各町内会、東四郎丸小、四郎丸小、袋原中学校、病院などの各施設に掲示し、前年度から継続して行ってきた災害時に役に立つ活動により、「安全安心な東中田地区」実現の積み重ねができた。

安全安心なまちづくり事業 2020

「いっとき避難場所」「がんばる避難施設」の看板を町内会長さんが設置してくれました！！

「助っ人マップ」完成

２．【袋原中学校区学びのコミュニティ推進委員会】事務局長・事務局　2012 年～

～東中田地区の３小学校・中学校と地域の連携事業～

袋原中学校区学びのコミュニティ「かにっこ和太鼓隊」は、家庭教育、学校教育、社会教育の相互連携を包含した生涯学習社会実現の一環となっている

＊東中田復興プロジェクトかにっこ和太鼓隊

昔、名取川が氾濫した時に伊達政宗様が建立した観音様を名取川のカニが助けたというカニ伝説にちなんで「東中田復興プロジェクトかにっこ和太鼓隊」を結成。

「助け合いのまち」東中田地区の三小学校と袋原中学校から集まった小学生や中学生、PTA、教師、スーパーバイザー、地域住民などが「地域を、みなさんを元気にしたい。地域の、みなさんの笑顔がみたい。」とお祭りなどで和太鼓演奏をしてきたが、今年度は新型コロナウィルス対応のため活動は行わなかった。

３．【東中田子育てネットワーク】　代表・事務局　　2013 年～

～東中田地区の 3 児童館が中心となり、地域の子育て支援事業に携わる団体や児童発達支援センター、保健センターとの連携事業～

地域の子どもたちや親子などたくさんの方が楽しみにしてくれる地域の子育て支援団体との連携イベントである乳幼児親子対象の「０・１・２・３おやこ　ひろば in　東中田」、障がいのある子もそうでない子も一緒にあそぼうとすべての子ども対象の「ひがしなかたかにっこまつり」、また　「老人クラブ運動会」参加などは、今年度は新型コロナウィルス対応のため活動は行わなかった。

連携団体：

東中田児童館・袋原コミュニティ児童館・東四郎丸児童館
仙台市袋原たんぽぽホーム　・太白区保健福祉センター　家庭健康課
読み聞かせ　グーチーパー　・東中田市民センター　ほっこりサロン
アフタースクールぱるけ・めろんの会
東四かにっこ放課後こども教室・ＮＰＯ法人ＦＯＲＹＯＵにこにこの家

【児童館事業】

「手をつなぐ児童館」「子どもの未来を応援する児童館」として、子どもの健全育成を目指し、仙台市１館、白石市２館の児童館運営を行った。

「めあて」

1）学校・家庭・地域の連携を重視して、児童館運営を丁寧に実施し、切れ目のない支援ができる環境作りを進める。

2）児童館が子どもの身近な遊び場、安全・安心な居場所となるべく、子どもたちの自己肯定感を育む健全育成を行う。

3）孤立しない、安心して子育てできる、子育ての共有ができる、子どもたちの親に寄り添える子育てを応援する児童館運営を行う。

4）家庭福祉を踏まえた地域連携子ども・子育て支援を進める。

5）令和２年度は新型コロナウィルス対応を心がけ、子どもたちの安全・安心な居場所作りに力を注ぐ。

～新型コロナウィルス感染予防対策～

1）　入館時の検温及び手洗い消毒、マスク着用を徹底した。
　特に食事の時は対面にならないようにした。

2）　３密を避け、１時間ごとに室内の換気を行った。

3）　使用したおもちゃは１回の使用ごとに消毒した。

4）　勤務時の検温、手指の消毒等、職員自身が健康管理に努めた。

5）　児童や家族の体調、ＰＣＲ検査の実施等について、保護者、学校や地域と情報を共有した。

6）　イベント開催時には主に下記の事項に留意して予防対策を行った。

・会場及び待合場所等における３密を回避した。
・誘導や表示によって、人と人との間隔を確保した。
・長時間の密を避けるために例年とは形を変え、１時間程度で実施できる内容を検討し、実施した。
・歌唱や声援を行わない内容とした。
・参加者の名簿を作成し、連絡先を把握した。
・イベントの前後や休憩時間などの交流を控えるように呼びかけた。
・手洗い消毒、マスクの着用を徹底した。
・入場者を制限し、密にならないように誘導した。

【仙台市東四郎丸児童館】2005 年～

１．管理運営の基本方針

「子どもが健やかに育つまちづくり」を目指し、子どもの身近な遊び場、地域の子育て支援の拠点として、健全な遊び場の提供と家庭教育を支援する事業を策定し、地域の人々や異年齢の子どもたちとの地域交流、世代間交流を実施し、子どもたちの自己肯定感と自己実現を図る社会教育に携わる児童館運営を行う。学校教育、家庭教育、社会教育が重なり合って、子どもたちの笑顔を未来へ繋げて行けるよう育む。

ひとり親世帯や心身を患っている親世帯、障害児を持つ世帯、核家族などが多く、社会的格差及び貧困から来る家庭機能の低下と子どもの心身の不健康と発達の遅れを引き起こしている地域であることを踏まえ、地域に蔓延する社会経済格差・教育機会格差・生活習慣格差・精神的身体的格差など「格差の連鎖」が次世代への継承につながらないように、児童館や学校などの様々な機関が地域と連携して、「社会の絆」を強めることが、「格差の連鎖」から子どもを守ることになると考え、運営を行う。

【利用者サービスの向上】

児童館が地域に生きる子どもたちや親たちの「地域のほっとステーション」となるよう利用者のサービスに努めた。健全な遊びを通して子どもの健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設として、児童健全育成・子育て家庭支援・地域交流推進・放課後児童健全育成事業に取り組むと共に、事故保障体制を図り、サービスの向上を図った。

【地域特性を考慮した利用者サービス】

ひとり親世帯や心身を患っている親世帯、障害児を持つ世帯、核家族などが多く、家庭機能の低下と子どもの心身の不健康と発達の遅れを引き起こしている地域であることを踏まえ、子どもたちの心の歪みや心の余裕がない家庭に対し、家庭福祉を踏まえた子育て支援を地域や学校と共に取り組んだ。

【地域の子育て支援の拠点】

命を宿ったときからの子育て家庭の支援、切れ目のない支援の充実を図った。
子育て支援室『ma・ん・ma ルーム』事業において新型コロナウィルス禍の状況で、孤独な子育て、孤立予防に取り組んだ。

２．児童館運営の４柱

【健全育成事業】

子どもの未来を応援する児童館として、児童館が子どもの身近な遊び場、安全・安心な居場所となるべく、子どもたちの自己肯定感を育む健全育成を地域社会全体で行った。

1)　子どもたちの孤立予防のために、当法人が実施している「シニア応援事業」「防災・減災事業」「地域交流事業」「心の輪事業」を活用し、「社会の絆」を強め、子どもを守ることや子どもの生活習慣作り、乳幼児の発達段階にあわせた子ども・子育て応援に取り組んだ。

2) 子どもたちが未来に希望が持てるような環境づくりや一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちの自己肯定感が向上するような取り組みを学校・地域・企業・社協との連携して行ってきたが、今年度は自粛や縮小事業となった。

今年度は自粛となった活動：

＊東中田地区小中学校との連携事業

＊学びのコミュニティかにっこ和太鼓隊児童館が事務局・館長は事務局長。
家庭・学校・地域連携「かにっこ和太鼓隊」活動

＊東中田子育てネットワーク事業　代表・事務局
東中田の三つの児童館や障がい児親子支援事業所、保健センターや子育て支援団体と連携事業
「0･1･２３おやこひろば」「ひがしなかだかにっこまつり」「老人クラブ運動会」

＊次世代育成事業
仙台市社会福祉協議会やゆるるの夏の高校生ボランティア、袋原中学校職場体験、東北福祉大インターンシップ受入や仙台東高校マジック部、中田中科学部

＊子どもボランテイア　チームかにっこ：児童クラブ子どもボランティア
会議を行いながら、にこにこの家感謝祭、にこにこ児童館祭り、クリスマス会、星空コンサート、ピカソの日等でのボランテイア活動

＊心の輪事業･･･関西や東京の企業との連携事業
・由本さんとゆかいな仲間たちイベント
・西宮阪急百貨店絵本「宮城県へ絵本を送ろう　プロジェクト」で気仙沼や塩釜、亘理などの児童館に絵本を配布。

今年度は縮小となった活動：

＊東四かにっこ放課後子ども教室とコラボ事業
児童館と東四郎丸小の放課後子ども教室の連携し、月 1 回実施し、異学年間交流を図った。

【子育て家庭支援】

命を宿ったときからの子育て家庭の支援、孤立しない、安心して子育てできる、切れ目のない支援ができる環境作りに力を入れた。また子育ての共有ができる子育て支援、子どもたちの親に寄り添える子育てを応援する児童館運営を行った。

～誕生から小中学生までのつながる支援～

今年度は自粛となった活動：

☆いつでも来られる児童館

〇子育て支援室『ma*ん*ma ルーム』乳幼児親子や地域の祖父母が一緒に遊べる場。授乳できるスペースや食事スペースもある。

〇自由来館の子どもたち　　遊戯室でのレクリエーションの自由参加

〇かにっこルーム　　小・中・高校生が遊びや勉強などで自由に使える部屋

〇地域の保育所や障がい児支援施設来館活動
午前中に自由来館し、児童館で遊ぶ。

〇小学校の地域探検授業　四郎丸小の子どもたちの休憩場所。

＊東北福祉大学健康科学部と連携（中止）リフレッシュクラスワークショップ
＊児童発達支援事業所袋原たんぽぽホームと連携（中止）
＊四郎丸地域包括支援センターさんと連携「認知症サポーター」講座（中止）
＊太白区保健福祉センター家庭健康課との共催事業（中止）
＊親の育成・意識啓発
・若竹よいこのくに保育園園長や栄養士さんからの講話（中止）

今年度は縮小となった活動：

☆子育て支援室『ma＊ん＊ma ルーム』
地域子育て支援拠点として子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や子育て相談，情報提供などを実施し、子育て支援を行った。
下記の事業は中止となったが、その他の「にこちゃんルーム」や「ちびっこひろば」で縮小しながら「まんまゆうえんち」「クリスマス会」「ひなまつり創作」など実施した。
＊親の育成・意識啓発
・「小さな防災・減災」にこにこの家理事長からの講話（実施）

☆　家庭福祉を踏まえた子育て支援
〇グレーゾーンの子どもたちや親子支援の必要な家庭の取り組み
〇障がい児とその家庭への支援　　「めろんの会」毎月第 2 木曜日開催

サンタさんからのプレゼント

どうぶつトンネル＆恐竜平均台

【地域交流推進】

“地域のみんなで子育て”を念頭に様々な形で地域に向けニーズにあわせた情報発信をし、地域や学校、ほっとネット in 東中田の福祉施設等と連携し、子どもの可能性が広がる体験と活動の場を提供し、家庭福祉を踏まえた子ども・子育て支援地域連携。

～家庭教育、学校教育、社会教育との調和～

今年度は自粛となった活動：

【にこにこ児童館応援隊】2005 年～
仙台市内の教育機関、福祉施設、専門機関、地域住民との連携による児童館の運営サポート機関。

【ほっとネット in 東中田(東中田地区福祉ネットワーク)】2003 年～(代表･事務局)
地域の福祉施設や連合町内会、市民センター、地区社教など 19 団体と連携し、避難所ボードを作成した 2020 年に小中学生と一緒に町内に設置する予定。

【東中田子育てネットワーク】2013 年～（代表･事務局）
東中田の三つの児童館や障がい児親子支援事業所、保健センターや子育て支援団体と連携し、「０･1･２３親子ひろば」「東中田かにっこまつり」を実施し、「老人クラブ運動会」に参加。

【袋原中学校区学びのコミュニティ事業】2012 年～（事務局長･事務局）
袋原中学校と三小学校、市民　センターと連携し、「かにっこ和太鼓隊で地域に笑顔を」活動などを実施。例年は会議 4 回、演奏 12 回。

【かにっことうちゃんｓ’】2009 年　～
地域のおとうさんスタッフが企画・運営。今年度は「紙飛行機作り」「かにっこ村の秋まつり」のイベントを実施。
父親の子育て参加を促すいろいろな体験や異世代間地域交流事業。

【にこにこひろば】2005 年～
望ましい子どもの心の育ちの取組みとして実施
・ケアハウス大宮、グループホームおちあいとの交流。「七夕飾り」「ハロウィン」
・にこにこの家で高齢者との交流ボランテイア

【にこにこタイム】2005 年～
地域の子どもたちとランチづくりや手芸、チョコ作りなどにチャレンジ。

【企業さんとの心の輪事業】2012 年～
・西宮阪急百貨店との「宮城県へ絵本を送ろう　プロジェクト」
・由本さんとゆかいな仲間たち」関西や東京の企業さんが関西たこ焼きカフェやフットサル教室、読み聞かせなど。

【放課後児童健全育成事業】

共働き家庭やひとり親家庭など放課後家庭に保護者等がいない小学生を対象に、遊びや生活の指導を行い、友達と楽しく過ごすことを通して、児童の健全な育成を図った。子どもの可能性が広がる体験や活動の場を提供し、子どもたちの生きる力を育み、将来社会的自立ができるような支援を行った。

～子どもの未来を応援する児童館～

1)「あいさつ」のできる子どもの育成や生活習慣を身につけることができるよう、日常の中で声がけを行った。
2)「子どもは社会の子ども」という観点から障害のあるなしに関わらず、児童の受入れを行った。
3) スポーツ、遊び、読書等を通して、協調性と連帯感を養い、思いやりのある子どもの育成のために「チャレンジひろば」「スポーツひろば」「スタディひろば」を設け、子どもの可能性が広がる体験を行い、楽しい児童館活動を推進した。
【チャレンジひろば】水曜日　簡単工作、手作り創作等にチャレンジ。
【スポーツひろば】　月曜日　いろいろな運動遊び、ドッチボールなど。
【スタディひろば】毎日宿題や興味のある勉強、金曜日　読書･読み聞かせ等
☆エコクラブ…エコロジーに取り組んだ。花植え、草取り、清掃など
☆音楽隊…みんなで１つのものを作りだし、やりとげることを目標。
保護者会で発表
☆ユニバーサル…点字ブロック、バリアフリー体験
☆がんばるんば…スポーツに積極的取り組み、「やる気」を促す。
☆防災･減災学習プログラム･･･入会時にリュックをプレゼントし、防災リュックを家庭で準備し、防災リュックを背負って避難訓練を実施。

３．事業成果

「子どもの未来を応援する児童館」「手をつなぐ児童館」として，子どもたちが健やかに育っていくことを願い，地域・学校・福祉施設と共に事業に取り組んできた。令和２年度は児童の安全を第一に考え，仙台市の方針に従ってコロナウィルス感染症予防対策を講じながら，実施可能な活動に取り組んだ。学校が６月まで休校であったことから，特に児童の心身のケアに配慮しながら，運動や創作活動などを通して，体力の向上や創造力の育成を図ってきた。さらに児童クラブの子どもの可能性を引き出す取り組みとして，クリスマス会では保護者の前で音楽の発表を行った。児童健全育成及び地域交流推進事業の一つとして，９月には東四郎丸小学校区の避難場所を確認するまち探検を行い，放課後子ども教室の児童や地域の方々との交流を図りながら，防災の意識を高めることができた。学コミかにっこ和太鼓隊については，２年度は活動できなかったが，これまで自己肯定感や地域に貢献する意識を育てるうえで大きな成果を上げ，地域の復興活動の一端を担ってきたことから，今後も活動を続けていくことを袋原中・東四郎丸小・四郎丸小・袋原小の４校と話し合った。また，子育て家庭支援事業としては，乳幼児親子にとって孤立せず安心して子育てのできる居場所の一つとなるように，９月からにこちゃんルーム月２回の活動を再開した。自由に外に出られない状況が続いていたので，遊びや創作活動，情報交換を通して子育ての不安感や負担感を軽減することができ，家族間の交流も図ることができた。現在コロナ禍でこれまでのような活動はできないが，感染予防対策に努め活動を工夫することで，少しずつ日常を取り戻せるように事業を実践していきたい。今後も児童館運営の 4 柱を念頭に，学校教育，家庭教育，社会教育が重なり合って，子どもたちの笑顔を未来へ繋げていけるように児童館運営に努めていきます。

【９/２６（土）　　まち探検】

東中田地区社会福祉協議会、町内会、ほっとネット in 東中田が連携して作成した「**いっとき避難場所**」「**がんばる避難施設**」の看板を大宮町内会長長谷川さんと東中田地区社会福祉協議会会長杉山さんたちといっしょに探しました。

【白石市第一児童館・第二児童館】　2015 年～

管理運営の基本方針

「子どもが健やかに育つまちづくり」「子ども・子育て応援社会」の実現を目指し、白石市が育んできた児童館運営を活かして、望ましい子どもの心の育ちと環境を整えて行くために、「手をつなぐ児童館」「子どもの未来を応援する児童館」として児童館が子どもたちにとって安全・安心な居場所になるように、白石第一児童館・第二児童館が連携し、運営を行ってきた。質の高いサービス、利用者ニーズへの柔軟なサービス、運営の平準化を図るように取り組んできたが、今年度は新型コロナウィルス感染予防対策を講じ、子どもたちの心身のケアに努めた１年となった。

また　子どもたちの健全育成の根源は家庭教育にあることから、「家庭福祉」を踏まえながら、放課後児童クラブ事業を継続して実践してきたが、今後も親の会と連携し、保護者の方たちとの交流を図り、保護者の思いに応えることを心がけながら、白石第一小学校、第二小学校と連携、相談しながら「子どもの未来を応援する児童館」として放課後児童クラブの健全育成に取り組む。

例年とは異なり、新型コロナウィルス感染対応のため、数ヶ月間　学校休業中の児童クラブ運営を行わなければならない状況になったが、両館の館長はじめスタッフ全員が万全を尽くして、子どもたちを守る体制維持を継続し行ってくれた。さらに　９月からはできるだけ「日常生活」を取り戻せるように、レクリエーションなども取り入れた児童クラブ運営をしていこうという法人の方針に従って、子どもたちに「あそびと学びのある日常生活」を取り戻せるよう協力的に取り組んでくれた。

また　厳しい状況ではありましたが、親の会の皆さんからは新型コロナウィルス対応のためのマスクや消毒液などの購入をしていただいたり、持参していただくなど心温まるつながりも見えた日々であり、白石市からのコロナウィルス対応のための備品提供も心強い安心をもたらしてくれた１年間でした。

白石市の児童館を運営して 7 年になるが、今年度は大変な年でしたが、法人の方針でもある「手をつなぐ児童館」の基盤ができてきたと考える。そして　白石市子ども家庭課さんとも意見交換をしながら、「子どもの未来を応援する」という同じ思いを共有し、多大な力をいただきながら市民協働の児童館運営ができてきたと思う。

新型コロナウィルスの影響は、これからがさらに大きくなると言われていることをしっかり受け止めて、今後も学校・家庭・行政と連携しながら、第一児童館、第二児童館共に、子どもたちの笑顔のために協働を進めていき、新型コロナウィルス対応も下記の対策に従って、子どもたちの心のケアに努め、安全安心な居場所としての児童館の役割を果たしていきたいと考える。

【白石市第一児童館】

１．児童館管理

【新型コロナウィルス感染防止対策】

◎施設内のアルコール消毒液による拭き取り実施

◎石けんでの手洗いとアルコール消毒液による手指消毒実施

◎マスク着用

◎来館時の体調チェックと検温実施

◎昼食時、おやつ時は子ども同士の間隔をとり、全員同じ方向を見て、しゃべらずに食事をとるようにした。飲食時の感背の危険を鑑み、２月からはおやつも中止とした。

【利用者のサービス向上】

◎放課後児童クラブの利用料について共働き家庭が多く、利用料の口座引き落としを希望する保護者もあり、令和３年度より実施する運びとなった。

◎保護者との連携の為に連絡帳を活用し、こまめに連絡を取り合う。
必要に応じて随時、保護者との面談や相談にも対応。

【人材確保・育成】

◎宮城県児童館・放課後児童クラブ連絡協議会研修や宮城県主催研修等はコロナ禍のため少なかった。

◎館内研修
毎月定例会で個人情報・接遇・家庭支援・気になる子への対応・トラブル防止等について話し合い自己研鑽に努めた。

【事故防止・防犯防災対策】

・毎朝、施設内の自主点検と施設周りの点検チェックを行う。

・施設内外の危険個所に「危険」や「立ち入り禁止」を示す掲示を設置
南側蔵からの瓦落下危険があり、立入禁止の柵を配置

・毎月、遊具の安全点検と遊具の消毒実施

・常時児童の見守り実施

・毎日の戸締りと消火の点検確認実施

・消防設備（消火器等消防設備の点検）の自主点検実施（月一回）

・避難訓練実施
図書館、第一幼稚園、アテネと合同で避難訓練を実施（回り番で担当する）

・危機管理マニュアルにより共通理解を図る。

【施設維持管理】

・朝夕の施設点検と清掃および手入れと簡単な補修。

・軽微な故障個所は早めに修繕をおこない、必要に応じて専門業者に依頼する。

・大規模修繕についてはにこにこの家と相談の上、白石市子ども家庭課に報告。

・リユース、リデュース、リサイクルの実施。

２．児童館運営

【放課後児童クラブ運営】

◎新型コロナウィルス感染拡大防止のため小学校の臨時休業が４月から２カ月間となった。その期間１．２年生は午前中からの利用、３年生から６年生は小学校での預かり以降の１４：３０から利用とし、密集性を緩和した受け入れとした。

◎発達に課題のある児童や支援の必要な児童に対する適切な配慮が出来るように、小学校や福祉関係の方々と情報交換や連携をとってきた。

◎生活習慣が身につくよう、自分の事は自分ですることを基本とし、下校後の宿題、遊んだ後の片付け、身の回りの始末など声がけを行った。

◎基本となる挨拶ができるよう率先してスタッフから挨拶を行い、「あいさつ」のできる子どもの育成をはかるように心がけてきた。

◎学校休業日は、昼食後に読書時間を設けている。
月一回アテネで行われる「おはなしひろば」の読み聞かせの会は毎年１年生が参加していたが、コロナ禍で密になることを避け、残念ながら参加できなかった。

◎毎月、水曜日は「4 時レク」を開催し、放課後児童クラブの利用登録児童が全員でレクリエーションに参加する時間を設けていたが、密を避けて４時からと４時３０分からに分けて実施した。

◎発達に課題のある児童や支援の必要な児童に対する適切な配慮が出来るように小学校や福祉関係の方々と情報交換や連携をとってきた。

◎生活習慣が身につくよう、自分の事は自分ですることを基本とし、下校後の宿題、遊んだ後の片付け、身の回りの始末など指導を行った。

◎基本となる挨拶ができるよう率先してスタッフから挨拶を行い、「あいさつ」のできる子どもの育成をはかるように心がけてきた。

◎ドッヂビーやサッカー、バドミントン、キャッチボール、卓球などスポーツに触れる機会を多く取り入れ、異学年の児童が関わることで良い刺激となっている。

◎春、夏休み等は、昼食後に読書時間を設けた。また、1 年生が月一回アテネで「おはなしひろば」の読み聞かせの会に参加し、本に触れる機会を多く持ってきた。

◎毎月、水曜日は「4 時レク」を開催し、登録児童が全員でレクリエーションに参加する時間を設け、高学年がリーダーとして発揮できる活動を行った。

◎新型コロナウィルス感染拡大防止のため、様々な行事や活動が中止となった。

小学校の休業期間中は３～６年生は１４：３０まで小学校で受け入れ対応したため、高学年はその後放課後児童クラブを利用せずに一人で家に帰るなどが多かった。また夏休み期間が短かったこともあり長期利用児童も利用しない高学年が増え、途中で中止した児童が例年より多くなった。

発達に課題のある子や気になる子などは各学年にいるが定期的にこちらから声をかけ相談を行い、共通理解を図り、みんなで見守り、同じように内応するよう心がけたがなかなか難しい状況もあった。そんな中で　不登校から保健室登校、そして保護者の見守り登校となっていた児童が放課後母親に連れられ児童館の事務室なら居られると短時間から来館するようになった。１２月頃からは図書室にそして集会室にもと徐々に友達の中に居られるようになり、母親は３月から仕事に復帰することが出来た。子どもや母親の気持ちに寄り添いながら進めてきた結果だと思う。今後も子どもたちの心に寄り添った対応を心がけて行きたい。マスク着用で過ごす子どもたち、初めはすぐに外してしまう児童もいたが、子どもたちにも協力を求め、叱らずに丁寧に声をかけ、手洗いの指導や消毒などコロナ禍を乗り切るためいろいろな努力をしてきた。２月からおやつも中止としたが、その分遊ぶ時間が増えたことを喜んでいる児童も多い。子どもにとっては友達との遊びが一番だと改めて思った。

【健全育成事業】

新型コロナウィルス感染拡大防止のため「こどもまつり」は中止となった。例年第一児童館で行ってきた「いっかんまつり」は内容を検討し、児童が室内に入らず児童館前でプレゼントをもらうようにした。児童クラブで作ったり遊んだりした手作りのおもちゃ３種類を準備し、くじ引きなど取り入れ、楽しく出来るように内容を工夫した。雨のためテントもとても役に立ち、テントの周りに看板をぶら下げたり装飾したりと環境もお祭りらしさを取り入れた。あいにくの雨だったが、１００人もの親子が集まった。

参加者全員の検温と消毒を実施し、間を開けて並ぶなど参加者の協力もあり無事開催することが出来た。内容はプレゼントを配るだけだったが、楽しんでもらえるような工夫やスタッフのアイディアが大切であると感じた。

自由来館（ランドセル来館）はコロナ禍のため館内は遠慮していただくように掲示した。よく遊びにきていた子どもたちも残念がっていたので、遊具の貸し出しをして小学校の校庭で遊んでもらうように対応した。

【子育て家庭支援事業】

毎日の何気ない一言が会話のきっかけになることも多く、出来るだけ多くの保護者の方に声を掛けるようにしている。お子さんのことについて声をかけてみるといろいろお話をしてくださる。待っているだけでなくこちらから声をかけていくようにした。

【地域の子育て支援】

◎８月、９月に１度ずつ子育て中の親子が二階のままごと室を利用。

３．　事業成果

新型コロナウィルスで始まった１年だったが、こういうときだからこそ常日頃の備え、チームワーク、地域とのつながりが大切なことを特に強く感じた１年だった。

常日頃から応援してくれていた放課後児童クラブの親の会の皆様からは親の会費でアルコール消毒液やマスク等の備蓄をしてほしいという意見をいただいた。マスクもなかなか手に入らない状況なので忘れてきた子どもや職員のみなさんも使ってほしいということでした。そのほかにも余分にあるのでとマスクを寄付してくれた保護者の方、自分の店で使用しているアルコール消毒液（１５㎏）を寄付してくださった方、手作りでマスクを作ってきてくれた方など皆さんの温かい気持ちに触れることが出来た。

にこにこの家の「手をつなぐ児童館」という考えが非常時にもこのような形となってみんなで子どもを守ろうという気持ちにつながっていると感じた。

コロナ禍はまだ続くと思うが、児童館があることで安心して保護者の皆様が働きにいけるように、児童館に来ることで子どもたちが友達や大好きな遊びでみんなとつながっていけるように今後も応援していきたいと思った。

4. 年間行事実績

令和２年度行事実施一覧　（中止･･･新型コロナウィルス感染予防のため）

月	日	行　　事	参加者数	協力団体（ボランティア等）
4	1	新入生を迎える会	子ども（６８人）	
5	18	春の遠足	中止	親の会
	18	作って食べよう～カラフルおにぎり	中止	親の会
	31	こどもまつり	中止	主催：こどもまつり実行委員会
6	6	にこにこタイム	中止	にこにこの家
7	29	ドッヂビー大会	中止	親の会･ジュニアリーダー
	30	夏のお楽しみ会（かき氷）	子ども（７６人）	親の会
	31	武家屋敷の七夕祭り	中止	白石市文化体育振興財団
	31	カレーパーティ	中止	更生保護女性会
8	1	由本さんとゆかいな仲間	中止	由本さん他
	4	ペットボトルのリサイクル工作	中止	生活環境課

	5	清風訪問	中止	しろいし母親クラブ
	6	手作り教室	中止	にこにこの家
	7	夏のお楽しみ会（水ヨーヨーつりなど）	子ども（４１人）	親の会
	18	夏のお楽しみ会（かき氷）	子ども（５１人）	親の会
	20	作って食べよう～サンドウィッチ	中止	親の会
9	7	親子クッキング	中止	ヘルスメイトしろいし
10	10	いっかんまつり	市内の親子（１００名）	親の会
	13	映画会	中止	更生保護女性会
	14	第一児、第二児ドッヂビー交流戦	中止	親の会
11	2	秋の遠足	中止	親の会
	2	作って食べよう～カラフルおにぎり	中止	親の会
	14	にこにこタイム「まち探検」	中止	親の会
12	25	クリスマス会	子ども（９２人）	親の会
1	７～28	紙相撲大会（毎週水・木曜日）	放課後児童クラブ全員	親の会
	16	にこにこタイム～雑煮作り～	中止	にこにこの家
2	13	にこにこタイム～バレンタイン菓子～	中止	にこにこの家
3	13	３．１１笑顔２０２１	中止	にこにこの家
	25	進級お祝いの会	子ども（５６人）	親の会
・	４時レク・・毎週水曜日（16:30～17:00）			
・	アテネ「おはなしひろば」・・毎月１回（15:30～16:00）コロナウィルス感染で中止			

第一児童館名物「紙相撲大会」

【白石市第二児童館】

１．児童館管理

【新型コロナウィルス感染防止対策】

昨年に引き続き、新型コロナウィルスの影響により、行事が中止になり、普通の生活を普通に送ることが難しい現状にある。感染拡大防止の為、白石第二小学校は、４月、５月が臨時休業となり、長期休業期間も大幅な変更を余儀なくされた。

それに伴い、放課後児童クラブは、その受け皿的役割を担い、長期休業日同様の形態で、連日８時から１８時３０分までの受け入れをした。

子ども達の心身の健康を守るべく、各家庭の協力の下、登館時の検温、マスク着用、手指の消毒、換気、机や遊具などの消毒を徹底した。勉強の時間や弁当・おやつを食べるときには、向かい合わせで座らないようにしたり、部屋を分けて密にならないようにしたり工夫して過ごすように心がけた。２月からはおやつの提供も取りやめ、新型コロナウィルス感染のリスクを軽減するように努めた。

【利用者のサービス向上】

◎質の高い支援を目指し、スタッフの資質向上のため、研修会への参加を心掛けてきたが今年度は研修回数も少なく、あまり受講はできなかった。個々の子どもの特性を理解しそれに応じた対応、働きかけができるようにしてきた。

◎「放課後児童クラブのてびき」を作成し、それを元に保護者説明会を開催している。

◎より支援の必要な子については、保護者の気持ちに寄り添いながら、適宜保護者と情報交換をしたりしながら一緒に考えていくようにした。

◎苦情があったときは、しっかりと受け止め、スタッフで共有し、できるところは改善するよう心がけた。

【人材確保・育成】

◎各種の研修会に参加する予定だったが、新型コロナウィルス対応のため、今年度は定例会などで研修を行った。

◎新型コロナウィルスに感染しないように、スタッフも健康管理に努めた。

【事故防止・防犯防災対策】

◎安全に気持ちよく過ごせるように、毎日の自主点検や定期的な遊具の消毒を行った。

◎過ごしやすい空間となるように置き場所の見直しや、わかりやすい掲示の工夫をした。

◎遊びの場については、危険個所をスタッフで共通理解し、子ども達には口頭や視覚に訴えること（表示）により周知してきた。

◎白石市消防署の指導の下、地震と火災を想定した避難訓練、消火訓練を実施した。

【施設維持管理】

◎老朽化した建物や設備もあり、毎日のこまめなチェックが欠かせない。修繕箇所については早めに対応した。

◎リユース、リデュース、リサイクルを実施した。

2. 児童館運営

【放課後児童健全育成事業】

・適切な挨拶ができるように、スタッフが率先して挨拶をしてきたが、一部の子どもは、「うん」や「なに」など不適切な返答が見られる。家庭教育の歪みの影響からか、自己肯定感の低い子どもたちも多いので、今後も辛抱強く声をかけていく必要がある。

・日常的に乱暴な言葉、不適切な言葉が聞かれる。また、コミュニケーションがうまくできないことでトラブルになることも多い。中には、言葉での解決ができず、叩くなどの行動に出ることがある。言葉で自分の意思を相手に適切に伝えることができるように、これも継続して声掛けしていく必要がある。また、殴るなどの暴力行動に対しては、子どもたちの心の声に耳を傾け、子どもたちの心に寄り添いながら、スタッフ全員で心がけて対応していく。

・児童クラブは、集団生活の場であることを理解させ、ルールを守ることの大切さを繰返し知らせるようにした。日々の生活や遊びの場を通して、子ども同士の中で育て育ちあう機会を多く持つようにし、当たり前のことが当たり前に出来るように取り組んだ。

　特に、自分の持ち物の管理は、将来的にも大切と捉え、身の回りの始末や整理整頓、後片付け、使ったものや遊んだものは、「元に戻す」等は繰り返し知らせるようにし、一定の改善はみられた。

・新型コロナウィルスの影響で中止にしたイベントや規模を縮小したイベントが多くなったことで、第一児童館と第二児童館の高学年の子ども達のボランティアチームである「チーム白石っ子」を結成することができなかった。今後は高学年の子どもたち一人一人が自己肯定感、自己存在感、自己決定力を持つことができるような役割を担っていけるように取り組んでいきたい。

・毎日の自主点検や定時的な清掃以外にも必要に応じての環境整備、美化に努めた。定期的な遊具、玩具の消毒以外にも新型コロナウィルスのことも考慮し、使用状況なども加味して消毒を行い、過ごしやすい環境を整えてきた。

【健全育成事業】
・これまでは親の会、更生保護女性会、ヘルスメイト白石、しろいし母親クラブ、小学校、地域の方等の協力をいただきながら、健全育成に取り組んできた。令和２年度は新型コロナウィルスの影響で様々な行事を中止せざるを得ない状況ではあったが、地域の方々と触れ合うことで、人への愛着、地域への愛着が沸き、子どもたちにとっては、様々な経験を広げることができるので、令和３年度は新型コロナウィルスの状況を考慮しながら取り組んでいきたい。

・児童館まつりは、新型コロナウィルス感染防止のため、館内での開催ではなく、庭での開催することとした。当日は雨が降っていたにもかかわらず、子ども・大人を合わせて１２７名が参加してくれた。今後も「手をつなぐ児童館」「子どもの未来を応援する児童館」の理解を深めてもらえるよういろいろな行事を通して啓発していきたい。

【子育て家庭支援事業】
・気になる子、支援の必要な子についてはこまめな記録を心がけてきた。その積み重ねを基に、保護者を含めて情報交換をしてきた。さらに、「子育て支援」や「カウンセリング」などの観点から、スタッフの質の向上のためにも各種研修の必要性を感じている。
　支援の必要な子への適切な対応を目指して、スタッフ間の情報共有、学校との連携、保護者との情報交換など引き続き取り組んでいきたい。

・保護者支援の面では、お迎えの時や、おたよりパックを有効に活用することで、保護者とのかかわりを密にすることが出来た。保護者の困り感に寄り添いながら、一緒に考えていくようにしてきたことで、共通理解の下、見通しを持って、対応することが出来た。

３．　事業成果

・「白石の子どもたち」という広い視点で、児童館運営を実施するという法人の方針に基づき、第一児童館と一緒に企画・実施してきた「ドッヂビー交流戦」「合同の遠足」「にこにこタイム」「まち探検」などのイベントは、新型コロナウィルス感染予防のためには、２つの児童館合同で行うことは難しく、各館それぞれで行うなどの考慮を図った。

・生活の場でも行事の場でも、高学年の子ども達に役割を持ち、子ども達が主体となって活動できるようにしたかったが、新型コロナウィルス感染予防のために、高学年の利用が減り、高学年に役割を担ってもらう機会が少なくなってしまった。
　子ども達が「できた」という達成感を持ち、自信につながるものにしていくために、普段の活動の中でも子どもたちに役割を担ってもらうよう今後も取り組んでいきたい。

・新型コロナウィルスの影響の中、できることとできないことを検討しながら児童館運営を行ってきた。やむを得ず中止するイベントもあったが、実施したイベントについては、新型コロナウィルス感染防止対策をしながらの実施となったが成果はあった。

・「手をつなぐ児童館」の下、これまで連携してきた更生保護女性の会、ヘルスメイト白石、しろいし母親クラブ、民生委員等地域の方に加え、仙台市東四郎丸児童館で取り組んできた「心の輪事業」の協力者の企業さんたちが白石でも子育て応援をしていただいていたが、新型コロナウィルスの影響で連携したイベントが中止となってしまった。今後も新型コロナウィルスの影響が続く中、今年度実施したイベントを参考に、「with　コロナ」の活動の下準備ができた。

・学校やいろいろな団体との連携ネットワークを大切に、子どもたちの笑顔でいっぱいの児童館運営を実施し、学校、地域、家庭と共に、子ども子育て応援社会を目指します。

4. 年間行事実績

令和２年度行事実施一覧				（中止･･･新型コロナウィルス感染予防のため）	
月	日	曜	行　事	参加者数	協力団体（ボランティア等）
4	1	水	新入生を迎える会	子ども：６９名 （うち１年生 19 人）	親の会
5	25	月	春の遠足（益岡公園）	中止	親の会
	26	火	作って食べよう（おにぎり）	中止	親の会
	31	日	こどもまつり	中止	こどもまつり実行委員会 親の会
6	6	土	にこにこタイム	中止	にこにこの家
7	29	木	作って食べよう（かき氷）	子ども：７６名	白石文化体育振興財団 親の会
	31	金	武家屋敷七夕	中止	白石文化体育振興財団
8	1	土	由本さんとゆかいな仲間たち	中止	由本さんとゆかいな仲間たち
	3	月	リサイクル工作	中止	白石市生活環境課
	4	火	裁縫教室	中止	白石市生活環境課
	6	木	作って食べよう （かき氷）	子ども：５６名	白石文化体育振興財団 親の会

	20	木	作って食べよう （サンドウィッチ）	中止	親の会
9	5	土	親子クッキング	中止	ヘルスメイト白石 親の会
10	13	火	ひだまり訪問	中止	社会福祉法人栄世会ひだまり
	13	火	映画会	中止	更生保護女性会
	14	水	ドッヂビー交流戦	中止	親の会
	17	土	児童館まつり	小学生、未就学児： 109 名　大人：１８名 計１２７名	親の会
11	2	月	秋の遠足（益岡公園）	中止	親の会
	2	月	作って食べよう （おにぎり）	中止	親の会
	14	土	にこにこタイム （まち探検）	中止	親の会
12	25	金	クリスマス会	子ども：７３名	親の会
1	16	土	にこにこタイム （雑煮づくり）	中止	にこにこの家
2	2	火	豆まき会	子ども：７５名	親の会
	8	土	にこにこタイム （チョコ作り）	中止	にこにこの家
3	13	土	３．１１笑顔２０２１	中止	にこにこの家
	26	金	進級お祝い会	子ども：５２名	親の会
	・５時レク毎週木曜日 4:30～5：00				

「放課後子ども教室連携事業」

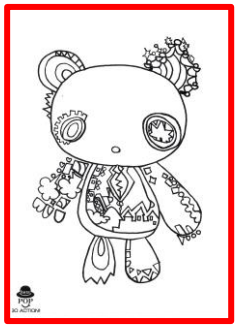
水生生物の観察・鹿の子沼見学

しめ縄・クリスマスリース作り

(5) 【心の輪事業】2012 年～

イラストレーター　ハタヤマ氏より「アマビエ」ぬり絵提供

世界的に活躍しているイラストレーター　ハタヤママサオ氏よりコロナ過で頑張る子どもたちに「アマビエ」のポスターとぬり絵をいただきました。



「由本さんとゆかいな仲間たち」

子どもたちにクリスマスプレゼントをいただきました。

「ゆかいな仲間たち」

金川（たかがわ）さんのお母さんから手作り布（ぬの）マスクのプレゼント！

「辻さん」

理事長のご友人の辻さんより、クラフトで作ったサンタクロースや節分の鬼などいただきました。

「神戸親和女子大学ユネスコクラブ」

手作りカードや手作りおもちゃをいただきました。

(6) **【防災･減災事業】**

東日本大震災の教訓を未来に伝え、防災･減災教育に取り組む事業。

「防災・減災ワークショップ」仙台市教育センター新防災副読本に掲載

「防災・減災ワークショップ」

◎「仙台発そなえゲーム」2013 年～

「市民協働による地域防災推進実行委員会の代表･事務局」

仙台市役所と仙台市民で震災の教訓を未来へ活かす体験型避難ゲームを開発した。震災の教訓を活かした「自助・共助・連携」の視点から地域コミュニティの活性化を図る。ある町のある人になりきって「あったらいいな！」と思う「災害へのそなえ」を考えるゲームです。

◎「防災･減災学習プログラム」2014 年～

～教育委員会元気アップ事業の助成を受け開発した

★未来へ震災の教訓を伝える★生活の場を支えあう★心の輪を広める

令和２年度実施会

今年度は新型コロナウィルスのため中止となり、2 校で実施会開催となりました。

東仙台小学校　4 年生

令和２年度　　防災・減災　ワークショップ

１）仙台発そなえゲーム　　２）防災・減災学習プログラム

日時		団体名	人数	ワークショップ	ファシリテーター
5/15（土）	10：00～ １２：００	南光台地域包括支援センター	５０名	仙台発そなえゲーム	中止
6/27（土）	１０：３０ ～ １１：１５	東四郎丸小学校地域防災訓練	１年～５年	仙台発そなえゲームなど	中止
9/5（土）	8：45～ 10：15	中田中学校	２年 ２２１名	仙台発そなえゲーム	中止
9/12（土）	10:35　～ 12:10	東仙台小学校	４年 ６３名	仙台発そなえゲーム	小岩・大野
9/26（土）	１０：１０～ １１：２０	西多賀中学校	９９名	仙台発そなえゲーム	中止
10/2（金）	13：40～ 15：00	袋原中学校	２年 140 名	仙台発そなえゲーム	中止
12/5（土）	14：00～ 16：00	将監中学校区地域ぐるみ健全育成協議会	60 名	仙台発そなえゲーム	中止
3/2（火）	11：30～ 12：15	石巻市湊小	３年 30 名	仙台発そなえゲーム	小岩

小岩への依頼

9/7（月）	東北福祉大学	動画オンデマンド授業		前期集中講義 「地域防災論」

（7）【子ども食堂事業】

1　実施内容

子ども食堂名	**子どもサロン　にこ寺子屋&ハリーレストラン**
開催場所（所在地）	仙台市太白区四郎丸字大宮 26－10 東四郎丸コミュニティセンター＆東四郎丸児童館
年間開催回数合計	7 回
参加者数合計	子ども　299　名、　大人　98　名
実施した居場所づくり活動の内容 ※宿題等の自主学習の支援、地域住民との交流、子ども同士の遊び体験等	今年度はコロナウィルスの影響により、「子どもサロンにこ寺子屋」ができない状況になり、宿題等の自主学習の支援、地域住民との交流、子ども同士の遊び体験等が提供できなかったが、「ハリーレストラン」とイベントを一緒にして、配食を行うなどニーズに合わせて活動を行った。「３・１１笑顔」の時は地域の方ばかりでなく、若林区の子どもたちも来てくれて広がりのある活動が実施できた。
子どもや保護者との関わりの中で福祉的な課題等について気付いた点	子ども食堂が「子どもの貧困問題」を緩和できる一助になればと願って活動をしている。 子どもたちが育つ上で、親のすべきこと、大切なことは･･･『ごはん・声がけ・いっしょ』だと思います。しかし、「ごはん」を食べるという習慣づけができていない家族、特に朝ごはんが用意されていない子どもも多いです。朝コンビニで買ったものを車の中で食べる朝ごはんの親子もいます。「宿題はやったのか。学校からの連絡はないか。明日の準備はできているのか。」などと声がけをして、できていなかったときや忘れていることがあったら、「いっしょにする」ことを放棄している親もいます。自分の都合で動いてしまう親に翻弄されている子どもの状況も見られます。今年度はコロナウィルス対応のために、方向を変えて「にこ　寺子屋」は中止し、「ハリーレストラン」を行った。新たな一歩にはなっているが、本来「ごはん」が必要な子どもたちがまだまだ足を踏み入れてない状況でもあるので、工夫する必要がある。今後は　基本的な生活習慣が身についていない子どもが多々いることを鑑み、学習支援と家庭支援の相互関係を踏まえて行っていく必要がある。課題は多々あるが、　本来の「子ども食堂」の目的･･･「ハリーレストラン」に来たみんなが、笑顔になって帰っていく・・・ことを目指して活動をしていきます。

	＊にこ・あい・ネット～相談活動～ 子育て・子育ち応援のため、相談活動も進めたいが、コロナウィルスの状況下において足を止めている状況である。 電話での相談があり、対応している。

（ハムカツバーガー）

（栗ごはん・いも煮）

かぼちゃ型やおばけ型のご飯にミートボールや野菜をそえたハロウィンランチ100食を提供しました。
ランチが入っているお弁当箱やランチバッグはそのままプレゼント☆
お昼に食べていた児童クラブ子ども達からは「おいしい」「かわいい」の声がありました。

(8)【その他の連携事業】

〇宮城県児童館・放課後児童クラブ連絡協議会理事会・実行委員会

2021 年度の「全国児童館みやぎ大会」の実施。副理事長。みやぎ大会実行委員。３館長やスタッフ６人も企画委員。

〇仙台市内児童館連絡協議会

仙台市の指定管理運営団体や業務委託事業所と連携し月１回の児童館運営検討会。児童館の運営について話し合い、子どもたちの健全育成事業に取り組んできている。参加できない日も多々あったので次年度はできるだけ参加する予定である。

〇太白区子育てネットワーク事業

太白区社会福祉協議会主催事業。太白区の乳幼児親子支援活動。

Ⅲ　事業の実施に関する事項

(1)　特定非営利活動に係る事業

事 業 名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (単位：千円)
文化、芸能等のボランティア活動事業	**【シニア応援事業】** **〇ミニディサービス：** 閉じこもり予防等 麻雀・手芸など	月１回 火曜日	東四郎丸コミュニティセンター	延べ 36 人	高齢者中心にどなたでも 延べ 41 人	865
	〇住民主体による訪問型地域支え合い活動促進事業	R2 年４月からR3 年３月	にこにこの家	2 人 生活サポーター10 人	38 名 204 回	432
	〇子どもサロンにこ寺子屋＆ハリーレストラン子ども食堂助成事業	R2 年４月からR3 年３月	にこにこの家	5 人	7 回 子ども 299 名、 大人　　98 名	214
福祉、医療及び教育施設並びに地域における文化･芸能等の提供事業	**【児童館事業】** **仙台市東四郎丸児童館** 仙台市指定管理事業 ・子育て家庭支援事業 ・児童健全育成事業 ・放課後児童健全育成事業 ・地域交流推進事業 子育て支援室 ma　＊ん＊ma　ルーム	月曜日から 土曜日	東四郎丸児童館	8 人	0 歳時から 18 歳児児童・乳幼児親子等	24,502
	白石市第一児童館 業務委託事業 ・放課後健全育成事業 ・健全育成事業 ・地域交流推進事業	月曜日から 土曜日	白石市第一児童館	10 人	児童館・ 放課後健全育成児童	15,916

	白石市第二児童館 業務委託事業 ・放課後健全育成事業 ・健全育成事業 ・地域交流推進事業	月曜日から土曜日	白石市第二児童館	11人	児童館・放課後健全育成児童	17,551
	【ＮＰＯ事業】		にこにこの家	事務局3名		6,552
市民団体への芸能等の普及活動	【防災･減災事業】 「防災･減災 ワークショップ」 ○「仙台発そなえゲーム」 ○「防災・減災学習プログラム」	2回	東仙台小 石巻市湊小	2名 事務局･代表	全国対象 60名	
その他、この法人の目的を達成するために必要な事業	【地域交流事業】 ○ほっとネット in 東中田 （地域福祉ネットワーク）	運営委員会 偶数月 定例会： 奇数月	にこにこの家・東中田地区	社会福祉法人など19団体	東中田地区住民	(50)
		東四郎丸地区社会福祉協議会連携事業 避難所看板設置と助っ人マップ作成				(108)
	○袋原中学校区学びの コミュニティ事業	コロナウィルス対応のため活動中止 ＊東中田復興プロジェクトかにっこ和太鼓隊 東中田地区三小学校･袋原中学校の子ども・教員・地域の方・スーパーバイザー等				
	【子育て支援団体連携】 東中田子育て ネットワーク事業	コロナウィルス対応のため活動中止 ○「0・1・2・3おやこひろば」 ○「老人クラブ運動会」 ○「ひがしなかたかにっこまつり」 東中田児童館・袋原コミィニティ児童館・東四郎丸児童館・太白区保健福祉センター家庭健康課・東中田保健センター 協力：袋原たんぽぽホーム　グーチーパーなど				
	【心の輪事業】　「関西や関東企業や大学との連携事業」 由本さんとゆかいな仲間たち、 神戸親和女子大学ユネスコクラブなどから物資などの提供					
	計					66,032

Ⅳ　組織運営に関する事項

１．　総会の開催

2020 年度通常総会を開催

開催日時：2020 年 6 月 10 日（水）10：30～12：30

場所：にこにこの家

議案：第 1 号議案　　議長選任

第 2 号議案　事業報告書、財産目録、貸借対照表及び収支決算書、事業計画書、収支予算書（案）の審議及び議決

2020 年度臨時総会を開催

開催日時：2020 年 6 月 26 日（金）10：30～1 1 ：30

場所：にこにこの家

議案：第 1 号議案　　事務所移転に伴う定款変更

２．　理事会の開催

開催日：　5 月 29 日（金）2019 年事業報告及び 2020 年度事業計画

11 月　5 日（木）令和 3 年度指定管理申請及び市民協働制度申請

３．　会議

(1)　東四郎丸児童館

毎月 1 回定例会	年 12 回
児童クラブ保護者会	年　5 回（1 回の保護者会を分けて開催）
東中田子育てネットワーク会議	年　3 回

(2)　白石第一・第二児童館

毎月 1 回定例会	各年 12 回
親の会	各年　2 回

(3)	事務局会議	年　3 回
(4)	ほっとネット会議	年 10 回
(5)	袋原中学校学コミ会議	年　1 回

４．組織の広報および理解促進

(1) にこにこの家会報、東四郎丸児童館だより　年 12 回、ほっとネット in 東中田年間カレンダー年 3 回、助っ人マップなど

→地域連携による町内回覧

地域の福祉ネットワーク施設や学校、町内会など 50 箇所配布

(2) にこにこの家イベントやほっとネット in 東中田年間カレンダーなど

→ときた河北新聞店さん 3950 世帯無料配布　年 5 回

(3) ホームページによる情報発信

QR コード活用･･･HP へ。緊急連絡コーナーへ。

5. 会員

2020 年度 正会員　34名　　賛助会員　3 名

6. 事務局員体制

(1) NPO法人 FOR YOU にこにこの家 事務所(太白区袋原 3－16－52)

仙台事務局:事務局長 1 名　事務 1 名

有償ボランティア　4 名　訪問型サポーター 10 名

白石事務局:事務局チーフ 1 名　事務 1 名

(2) 仙台市東四郎丸児童館(太白区四郎丸字大宮 26－10)

館長:1 名　常勤支援員:3 名　非常勤支援員:3 名　アルバイト 1 名

(3) 白石市第一児童館 (白石市字亘理町 37-1)

館長:1 名　常勤支援員:2 名　非常勤支援員:7 名

白石市第二児童館 (白石市字白石沖 6-3)

館長:1 名 常勤支援員:2 名　非常勤支援員:7 名

7. 職員研修

今年度は新型コロナウィルス対応のため研修の機会が少なかった。

NPO法人 FOR YOU にこにこの家全職員研修		中止
にこにこの家事務局事務局	・仙台市障害高齢課 ふれあいでいホーム研修	中止
	・仙台市障害高齢課 訪問型研修	中止
	・仙台市子ども未来局 子ども食堂研修	1回
仙台市東四郎丸児童館	・仙台市児童館支援員研修	6回
	・宮城県児童館連絡協議会館長研修	1 回
	・ミニかにっこセミナー	中止
	・定例会研修	1 回
白石市第一児童館	・放課後児童支援員研修	4 回
	・児童館職員等研修会	1 回
白石市第二児童館	・宮城県児童館連絡協議会館長研修	1 回
	・児童館職員等研修会	1 回